

元は遍路宿だが、今は秋や。それを手入れして、近所の人が4~5人詰めていて接待をしてくれていた。その日私は昼飯が十分でなかった
ので、参っていた。おにぎり、お菓子、お茶、道情報、地図を戴いた。



坂本屋



「中もちょっと写真とらせてくださいね」



シャッターを押してもらった。



55番南光坊のあたりではついていた。納経所の住職が私の顔を見て「とうきょう？」といった。「違う違う。福岡から。生まれは関西人だが」と返事をした。私の名前を聞いたので「糸乗、昔の寺ですよ」



○ついていた②

- ・鉛筆で書いて見せたら、筆で「一期一会」と書き、さらに私の名と自分の名を書いてくれた。納経所の方は団体の対応があるので、いつも忙しそうだ。先方から会話をしてくれたのは初めてだった。
- ・次の納経をする人が来たので、遠慮して歩き出した。しばらくすると下校する小学生が見えた。遠くから「へんろさ～ん、こんにちは」大声で呼びかけてくる。それが波状攻撃のように、5～6回やってきた。
- ・疲れが一拳に吹っ飛んだ。
- ・しばらく歩いてコンビニの角で信号待ちをしていると、30代ぐらいの厳つい男が近づいてきて、「ちょっとへんろさん」といって500円玉を2個渡してさっといってしまった。

知っている人はみんな楽しみにしている御接待。60番横峰寺の麓のビジネス旅館。四国を歩き始めておおよそ一ヶ月。お魚の国で出会った、お肉屋さん経営の遍路宿で、みんな嬉しそう。



出合いと御接待・伊予和気駅から大西駅に移動途中の社内

「ちょっと話していいですか」「ああいいですよ」「ずっと歩いて廻っておられるんですか」

「ごらんの通り、電車にも乗っているんですよ」

「でも歩いて廻っているんでしょ」

この日は27日目で、足下や荷物をみればすぐ分かる。

「国道を歩くのは止めて“輪頓の術”で廻っているんです。

「何日かかるんですか」

「輪頓の術を使えば35日くらいですかね」

このあと電車を降りるまで、遍路の感想を聞かれた。東京の人だった。

87番長尾寺の手前の造田駅で降りたとき、電車に乗っていたおばさんが、私は挨拶もしなかったのに、自販機でお茶を買って待っていてくれた。道も教えてもらった

遍路センター



この遍路センターで、「遍路大使」の委任状とバッジをもらった

